

南魚沼郡市 特別活動部 活動報告

南魚沼市立蕨神小学校 赤澤節子

1 研究主題

よりよい人間関係を築く活動の工夫

2 研究推進の概要

(1) 特別活動部会

① 実施期日・会場 5月 6日(金) 南魚沼市立六日町小学校

② 内容

ア 特別活動部の組織づくり

イ 研究主題の決定

ウ 活動計画の作成

エ 推進委員の選出

(2) 実践発表会

① 実施期日・会場 8月19日(金) 南魚沼市立蕨神小学校

② 内容

ア 部員一人一人が、研究主題に沿って行った学級活動や児童会、委員会活動などの実践を、A4版1枚程度のレポートにして、紹介し合う。

イ 紹介された実践の成果、改善点等について意見交換することで、今後の自校の実践に生かせる情報を持ち帰る。

ウ 特別活動の評価について情報交換し、自校の的確な評価に役立てる。

(3) 南魚沼市学習指導センター研修講座への参加

① 実施期日・会場 ア 6月21日(火) 南魚沼市立北辰小学校

イ 8月24日(水) 南魚沼市立浦佐小学校

② 内容

ア 学級づくり講座①「一人一人に確かな力を育てる学級づくり」

〔指導者〕 桑原 一之 氏 (南魚沼市立栃窪小学校 教頭)

イ 学級づくり講座②「かかわる造形」

〔指導者〕 佐藤久美子 氏 (南魚沼市立浦佐小学校 教頭)

3 成果と課題 (○成果 ●課題)

○ 新学習指導要領を受けて昨年度から同研究主題で取り組んでいる。また、文部科学省は、新学習指導要領のもと、特別活動で子どもたちが話し合いと実践を通してよりよい学級や学校生活を創る取組を「子ども熟議」としてすすめている。今年はこの視点も取り入れながら実践することにした。その結果、話し合う場や振り返りを大切にした児童会・学級活動や、学校評価に人間関係づくりを位置付けて全校体制で取り組むなど焦点化された実践が現われた。

○ 本年度から指導要録「特別活動の記録」に評価の観点を記入することになった。観点を定める過程において「特別活動でどんな児童を育成するのか」を教職員が検討することで育てるべき力を共通理解すること、明確なねらいをもって指導を展開することなどを確認し合い、各学校での確実な取組につなげることができた。

○ 東日本大震災の影響を受けて避難してきた子どもを受け入れた学校では、児童会活動の充実を図ることによってよりよい人間関係を築きたいと、新たな集会を企画運営した。また、学級活動で意識的にエンカウンターやSSTの手法を用いたりした学校もあった。

● 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、互いの実践に学びながら、自校の実践をより成果のあるものにしていく必要がある。「どんな活動をするか」の検討よりも、「なぜそれをするか」「どんな力を付けさせたいか」を検討することの重要性を認識し始めてきた。児童会活動のみならず学校行事等の改善にも特別活動部員が核となる必要がある。

● 縦割り班活動では子どもたちは「やらされているからやる」という意識が見られる。みんなで活動する楽しさを積み重ねることによって、学びの主体性や自主的、実践的な態度を育てていく必要がある。